

ユニセフ兵庫ニュース
Wish

世界の子どもたちのために

vol. **68**

2022年9月号



笑顔で学校へ行くアフガニスタン山の学校の子どもたち

CONTENTS

2-3 兵庫県ユニセフ協会設立 20 周年記念企画 3
写真と数字で振り返る 20 年

EVENT REPORT

4-5 設立 20 周年記念
長倉洋海さん講演会 / 國井修さん講演会

7 活動ファイル
2022年4月～8月

8 お知らせ

20TH ANNIVERSARY

兵庫県ユニセフ協会 3 設立 20 周年記念企画 写真と数字で 振り返る 20 年

兵庫県ユニセフ協会は今年20周年を迎えました。これまで兵庫県内だけでなく数多くの場所で、いろいろな人たちと出会い、つながってきました。9月号のWishではこれまでの活動を写真と数字で振り返ります。



▲竹本前兵庫県ユニセフ協会会長と歩く広島ピースウォーク (2010年)
◀ユニセフのつどい (2017年) & 当協会キャラクター「クーマン」 (2009年)



▲(左) 神戸市・あいな里山公園でのユニセフセミナー「水の教室」 (2018年)
(右上) 香川県・余島での第5回「福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ」 (2016年)
(右下) 大きなすごろくで遊びながら知ってもらおうユニセフや世界の子どものこと (2018年)



イベント
87回
年齢を問わず誰もが楽しく
参加できる催しを
実施しています。



出前学習会

506会場

ボランティアが講師となり、学校や地域のグループなどでそれぞれの要望に沿った学習会のお手伝いをしています。最近ではオンラインでも行っています。

▲オリジナルエプロンを使ってユニセフの活動を紹介 (2017 年)

講演会・セミナー

167回

国内外から講師を招き、さまざまな視点から自分にできることを考える機会を作っています。最近ではオンラインも併用しています。



▲末吉 洋文さんによるユニセフセミナー「子どもの権利とSDGs」(2019 年)



▲神戸市・元町での「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」街頭募金活動 (2013 年)

街頭募金

129ヶ所

毎年 11・12 月に行うハンド・イン・ハンド募金や緊急支援募金など街頭で募金を呼びかけています。2020 年からは新型コロナウイルス感染症予防のため実施していません。



▲街頭募金のためのポスターを作るトライヤルの中학생たち (2018 年)

写真・パネル展

64回

ユニセフの活動や世界の子どもたちのことを写真やパネル、支援物資などで紹介しています。

▼神戸市・住吉のギャラリーでユニセフ支援物資などを展示 (2012 年)



トライやる・インターン等受け入れ

66校

ユニセフに関心のある中・高・大学生を受け入れ、学習会やワークショップをしたり、一緒にイベントを行ったりしています。

*トライやる (トライやる・ウィーク) は兵庫県が県内の中学 2 年生を対象に実施している地域での体験活動。



© 長倉洋海

- (上) クラウドベリーの草原で寝転ぶシベリアの遊牧民ネネツの女の子
 (左) 牧場をつくるために四角く伐採されたアマゾンの森
 (右) 円を作って踊るアマゾン・シャパンチ族の男たち



© 長倉洋海



© 長倉洋海

EVENT REPORT

1

設立 20 周年記念 長倉洋海さん講演会

四角いぼくたちと まあるい地球

長倉さんは、アマゾンやシベリアの先住民、アフガニスタン抵抗運動の指導者マスード、難民キャンプの子どもなどを長い期間にわたって撮影し続けてきました。今回の講演会で私たちは多様な地球の上に生きる人そのものの姿と生き方を長倉さんの写真とお話から知り、自分の足元を見つめ直してみました。



長倉 洋海さん
ひろみ

写真家。アフガニスタン山の学校支援の会代表。1952年北海道釧路市生まれ。紛争地や辺境に暮らす人々を撮影。写真集に『マスード 愛の大地アフガン』(第12回土門拳賞)、『人間が好き—アマゾン先住民からの伝言』(産経児童出版文化賞)などがある。

参加者の感想から

- ・これまでの常識を疑って、どういう未来を自分たちは後の世に残すべきか、考え、少しでも実践出来たらと思っています。
- ・四角い、角があるからぶつかり合い、争ってしまう。「まあるい地球」あらためていい大切だと感じました。まあるければぶつかり合っても余分な力をにがしてくれるのかなと感じました。

私たちが今生きている便利で効率の良い世界は、コンピューターや車など四角いものに囲まれています。一方自然のものは直線ではなく、地球は丸そのものです。私たちは丸いもの、円周率のように無限に続いて割り切れない不思議なものをどこかで忘れてはいないでしょうか。

長倉さんが出会ってきた辺境に生きるさまざまな先住民は、多くが丸い家に住み、自然への敬意と地球に生かされてもらっているという意識を共通して持っています。「自然にあるものは取りつくさない。土地は地球のものだから個人所有はしない。地下にあるものは神が隠しているものだから掘り返さない」。近代文明はこうした意識を持たずに、地球の速度を無視して欲望に任せたスピードで地球を壊してきました。牧場をつくるためにジャングルを伐採したり、土地をめぐる争いを繰り返したり、地下

資源を掘り起こすことでさまざまな害を生じさせたりしています。そして無理してきたものが今、天災や紛争などというツケとなって返ってきているかのようです。古くから、人は知恵を持ち仲良く生きてきました。価値観の違いが戦いを生んでしまっても、「相手を傷つけることは自分の魂も傷つけ、自分の中の輝きを失う」という気持ちで戦いをやめようとしてきました。たとえ相手が悪くても話し合いを続け、呼びかけに応じなくても声を大にして戦いをやめようと言い続けなければならないのです。人は自分のできることをして助け合い、最後はみんな「輪」になることで平和になるのです。

自分の中に地球を感じ地球のリズムと自分のリズムが合ってくれば、ゆったりとして細部にまで目がいきわたり、地球の豊かさを感じられるようになります。大部分の人の人生は右肩上がりて進歩するばかり

でなく、アマゾンの川のように蛇行し、ゆっくり円を描いていくものなのでしょう。長倉さんもいろいろな所で生きることを答えをずっと探し続けていたらそのヒントが見えてくるようになり、その時々喜びを見い出せるようになったそうです。

手と手をつないで最初と最後もつないだら、まあるい円になります。今、私たちは改めてまあるいものへ回帰することが必要なのかもしれません。

Data イベントデータ

日時 2022年4月16日(土)
 会場 コープこうべ生活文化センター
 (神戸市東灘区)

参加者 110人

*この講演会は「公益信託兵庫県婦人会館 ユネスコ基金」の助成を受け開催しました。

2



設立 20 周年記念 國井修さん講演会

世界を変えるのは 私たち一人ひとりの行動

—世界を知り 今を全力で生きる公衆衛生の専門家に学ぶ—

装備をしたユニセフ時代の國井さん ▲
エイズ薬の開発・普及は
目覚ましい成果をもたらした
治療を受け回復した男性
(左) 治療前 (右) 治療後



今回の講演では、長年に渡り世界で、感染症、紛争、災害などの脅威と戦ってきた経験を、多くの写真や資料とともに聞き、いかに地球と人類双方の健康を守りながら生きていくか、どのような未来を見据えて行動すべきかという事について考えられました。ハイブリッド開催ということもあり、日本各地はもとより海外からの参加もありました。



國井 修さん

医師。ユニセフ、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）などを経て、2022年3月から、グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）CEO。世界110カ国以上で人道支援、感染症対策など保健医療活動に従事。第54回吉川英治文化賞等を受賞。著書に『人類 VS 感染症 新型コロナウィルス・世界はどう闘っているのか』など。



オープニングは、竹内海人さんのクロマチックハーモニカ演奏、素晴らしい音色が会場を包みました。

Data イベントデータ

日時 2022年7月30日(土)
会場 兵庫県民会館(神戸市中央区)
参加者 会場68人 / オンライン108人
*この講演会は「公益信託兵庫県婦人会館 ユネスコ基金」の助成を受け開催しました。

國井さんは、国内での僻地診療のかたわら NGO を立ち上げ、国際緊急医療援助等に携わってきました。その後ユニセフに入り海外支援に専念します。たとえ危険が多くとも、最も支援を必要としている人に保健医療サービスを届けることができる機関として、ユニセフを選びました。無政府状態で内戦が続くソマリアでは、職員の安全のため頻りに移動手段やルートを変え、ゲリラに一定期間の停戦をしてもらい、その間に全土に渡るワクチン接種や栄養治療などの子どもの死亡を低減させるキャンペーンを行いました。2013年から9年間はグローバルファンドを通じて世界の三大感染症（エイズ、結核、マラリア）対策と保健システム強化に注力し、これまでに世界で4400万人以上の命を助ける活動を支援してきました。

今回の COVID-19 は、第二次世界大戦以降最大の危機といわれ

ていますが、世界にはさらに多くの人命を奪う病気があります。年間の感染者数をみると、2020年 COVID-19 では8500万人ですが、地球温暖化で感染が広がっているマラリアは2021年2.2億人でした。また、潜在的な結核の感染者数は2016年17億人で、世界の4人に1人は免疫機能が低下すれば結核を発症する可能性があります。アフリカのみならず東ヨーロッパでもエイズや結核は多く、品質の悪い薬や中途半端な治療により耐性菌ができ、薬が効かなくなってしまう。ウクライナは世界で二番目に新規結核患者の中の薬剤耐性結核の割合が多く、グローバルファンドにおいても重点国でした。

COVID-19 ワクチンは1年以内で開発され、有効な治療薬もできました。画期的なことですが、ところが残念なことに、日本での開発はなかなか進みませんでした。様々な背

景があります。世界には年間20億人もの感染者と200万人もの死者が発生する結核やマラリア、そして顧みられない熱帯病（NTDs）がありながら、治療薬やワクチン、診断・検査法がないものもたくさんあります。その研究開発促進のために、日本政府、ゲイツ財団、ウェルカム財団、民間企業などが官民で連携協力して創設したのがグローバルヘルス技術振興基金です。国内外から160以上の組織が参加・協力し、新薬開発を進めています。

地球温暖化や環境破壊は、新たな感染症の流行や既存の感染症の再燃を引き起こし、わたしたちの健康に大きな影響を与えています。人間を地球全体の生態系の一ひつとと考え、今世界で起きていることに関心を持ち、正しい情報とともに、自分事として自分で考えて未来を見つめながら行動することが大切です。

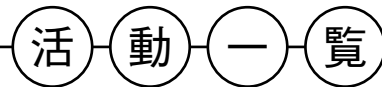


Activities File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2022年4月～8月



Activities List

学習会一覧

| 月日 | 訪問先 | 対象 | 人数 |
|-------|--------------|--------|----|
| 5月28日 | ユニセフ入門講座 | 大人 | 17 |
| 6月2日 | 赤穂市立塩屋小学校 | 6年生 | 69 |
| 6月8日 | 東豊中コープ委員会 | 大人 | 8 |
| 6月11日 | 宍粟コープ委員会 | 大人 | 8 |
| 7月8日 | 豊中北コープ委員会 | 大人 | 6 |
| 7月11日 | 北神コープ委員会 | 大人 | 8 |
| 7月20日 | 7地区平和防災企画委員会 | 大人 | 23 |
| 8月1日 | 摩耶学童保育所 | 小学生 | 34 |
| 8月9日 | 武庫川コープ委員会 | 大人 | 13 |
| 8月23日 | 上ヶ原育成センター | 大人・小学生 | 92 |
| 8月29日 | 神戸市立花谷小学校 | 5年生 | 49 |
| 8月30日 | 鈴蘭台東コープ委員会 | 大人 | 10 |

地域活動一覧

*ブース出展

| 月日 | イベント名 |
|-----------|-------------------------------|
| 6月1日～13日 | ユニセフパネル展『子どもの権利条約』ってなあに？ |
| 6月18日 | 2022国際理解講座① |
| 7月19日～29日 | ユニセフパネル展『子どもたちの緊急事態-自然災害と紛争-』 |
| 7月30日 | 設立20周年記念國井修さん講演会(ハイブリッド開催) |
| 8月11日 | 映画『ちむぐりざ』&西尾慧吾さんトーク |
| 8月26日 | コープこうべ第6地区平和のつどい * |

※インターン生受入 7/30～8/27のうち6日間 大手前大学3人

※自主体験学習生受入 7/11兵庫県立芦屋高等学校 7人
8/9兵庫県立西宮今津高等学校1人

募金一覧

2022年3月～6月

| 学校・団体名 |
|---|
| 神戸市教職員組合・神戸教育文化研究所、コープこうべユニオン、加西市役所、神戸市長久元喜造、神戸市議会、三田市、豊岡市、(株)産業経済新聞社、兵庫コープ委員会、(株)安上工務店、揖保川ボランティア協会、青葉園エコボラ活動、(有)有建土木代表取締役下阪有三、(特活)きょうどうのわ、コープサークルうたごえサロンつるかぶと、伊藤ハム(株)、生活協同組合コープこうべ、加古川市仏教会、神戸市立鷹取中学校、(一社)日仏友好シャノンKAKEHASHI代表理事風かおる、日本キリスト教団西神戸教会、兵庫県立篠山鳳鳴高等学校インターアクト部、芦屋市立朝日ヶ丘小学校令和3年度3年生、竹本さんとワイワイの会竹本節子、尼崎市立南武庫之荘中学校、NPO(法)神戸定住外国人支援センター理事長金宣吉、ボーイスカウト神戸第6団、加東市議会、(私)神戸山手女子中学校高等学校、(私)神戸山手女子中学校、(私)開智未来中学校生徒会、(私)開智未来中・高等学校生徒会、チアフルスポーツクラブスポーツエイド代表椎崎健 |
| ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同) |

1 世界の子どものことを知ろう

～外国コイン仕分けを通して～

日時 2022年4月29日(金・祝)
会場 コープこうべ生活文化センター
参加者 13人
主催 コープこうべ第3地区



実物の外国紙幣やコインを展示し、募金で寄せられた外国コインを「なぜ仕分けするのか？」そして「ユニセフの活動にどう活かされるのか」の説明を受けて、いよいよ作業開始。子どもと大人に分かれて、文字やデザインをヒントに「どこの国のかな？」と約1時間まさに仕分けに没入して、終了の声掛けにも名残惜しそうでした。子どもチームは、仕分けできた国のコインの数に応じて地図に色分けするのも楽しそうでした。「コインから各国の特徴や歴史がうかがえることも分かった、次回はぜひ虫眼鏡を用意して」という大人チーム。子どもチームからは「もっとやりたかった!」という全員の声がありました。「外国コインって珍しい、面白そう」がきっかけでも、誰もがはまるこの「仕分け」作業が「世界の子どもの未来」につながります。皆さんもぜひ……。 (利根素子)

2 ユニセフ 写真・パネル展

会場 コープこうべ生活文化センター1階展示室

「子どもの権利条約」ってなあに？

2022年6月1日(水)-13日(月)

「子どもの権利条約」はユニセフの活動基盤です。子どもを取り巻く環境が厳しさを増し、子どもの権利への関心が高まっている今、「子どもの権利条約」について、ユニセフ活動とともに紹介しました。



子どもたちの緊急事態 - 自然災害と紛争 -

2022年7月19日(火)-29日(金)



激化する武力攻撃を逃れるために首都キーウから列車に乗り込む人々 (ウクライナ)

「世界では、4人にひとり(5億3500万人)の子どもが紛争、不安定な情勢など、緊急事態下の国や地域で暮らしています。自然災害に見舞われた子どもたちや戦渦に巻き込まれ故郷を追われる子どもたちの状況、そこでのユニセフの支援活動を紹介しました。

3

映画『ちむぐりさー菜の花の沖縄日記』 と西尾慧吾さんトーク

日時 2022年8月11日(木・祝)
会場 西宮市大学交流センター
参加者 74人
共催 コープこうべ

沖縄が日本に復帰して50年。今もなお基地問題など多くの問題を抱えている沖縄の現状を考えるイベントが開催されました。

映画『ちむぐりさー菜の花の沖縄日記』

ちむぐりさは、誰かの心の痛みを自分の悲しみとして一緒に胸を痛めるという沖縄の言葉。このドキュメンタリー映画は、石川県からフリースクールに通うためにやってきた坂本菜の花さんが故郷の新聞に書きつづったコラム『菜の花の沖縄日記』を基に製作されました。戦争で学校に通えなかったお年寄りたちと共に学びながら、菜の花さんは今も続く「戦争」を肌で感じました。基地があるために起きる事故や事件、それとは対照的な穏やかな学校での日々。少女が見た沖縄の素顔を伝えています。

ヤマトンチュとして沖縄に向き合う ー「遺骨土砂問題」に取り組んで

米国イェール大学に在籍し、「沖縄戦遺骨収容国吉勇応援会」学生共同代表を務める西尾さんは今、遺骨土砂問題に取り組んでいます。国は沖縄島南部の遺骨の染み込んだ土砂を、辺野古基地建設に使用しようとしています。全国の市会議員へ働きかけ、210を超える自治体がこの問題の意見書を採択。使用反対の動きが広がっています。遺族や関係者と共に防衛省との意見交換もしました。しかし、国は市民の声を無視し、埋め立てを強硬に始めています。沖縄には日本の1%の面積に7割の在日米軍施設があり、多くの負担や苦しみを押しつけています。沖縄の問題は私たちの問題です。自分のこととして関心を持ち、真剣に受けとめなければなりません。



(左) 坂本 菜の花さん
(右) 西尾 慧吾さん

4

2022 国際理解講座① 未来を変える、平和をつくる

日時 2022年6月18日(土)
会場 兵庫県民会館
講師 マーサ・ターケットさん
(立命館アジア太平洋大学大学院生)
参加者 44人



マーサさんは内戦の続く西アフリカのリベリアで生まれ、10歳の時避難先で暴行を受け歩行困難に。全ての希望を失っていた時に「国境なき医師団」の看護師、美木朋子さんが手を差し伸べてくれました。2年間神戸で美木さんと共に暮らし、治療しな

がら勉学に励みました。ハンディキャップにもさまざまな困難にもめげずマーサさんは今、未来を変えたい、難民や不幸な子どもたちのために働きたいと学んでいます。

2003年まで14年間続いた内戦で30万人が亡くなったリベリアでは、親を助けるために働く子やストリートチルドレンになる子など、学校に通えない子どもがたくさんいます。マーサさんはこうした大きな問題を解決するために小さな一歩を踏み出そうと、子どもたちの教育サポート「マーサ ミッション アフリカ」を設立し仲間と活動しています。「戦争から平和な世界へ移るには、未来を担う子どもたちへの教育が大切」とマーサさんは思いを語りました。

最後に、運命的な出会いからずっとマーサさんを見守ってきたドイツ在住の美木さんからの「まだ入り口に立ったばかり、人生の夢を忘れずに歩いていってください」という想いのこもったメッセージが写真と共に紹介されました。

from Volunteers



『スペシャル・ガール』

作者 沢田俊子
発行所 汐文社

私のおすすめの本

童話作家の沢田俊子さんが書かれた、難民キャンプで重症を負ったマーサちゃんと彼女を救った美木朋子さんの物語の本です。

二人はどんな時でも、あきらめないで、希望を持ち続け、マーサちゃんは、一人で電車に乗って、買物に行くことができるようになり、母国リベリアの役に立ちたいと思うようになりました。

「マーサちゃん、朋子さん、前に進む勇気をありがとう」。今日の一歩は、明日への一歩につながると信じてことができました。

子どもにも大人にも感動を届けてくれる本です。 (酒井明子)

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

| 通信欄記載事項 | 振替口座 | 手数料 |
|-----------|---------------|-----|
| K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 | 免除 |

■ 緊急・復興募金

| | 通信欄記載事項 | 振替口座 |
|-----------|--------------------|---------------|
| ロヒンギャ難民 | ロヒンギャ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| シリア | シリア K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| アフリカ栄養危機 | アフリカ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 自然災害 | 自然災害 K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 人道危機 | 人道危機 K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 新型コロナウィルス | コロナ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| ウクライナ | ウクライナ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

Wish vol.68

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2022年9月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F


電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

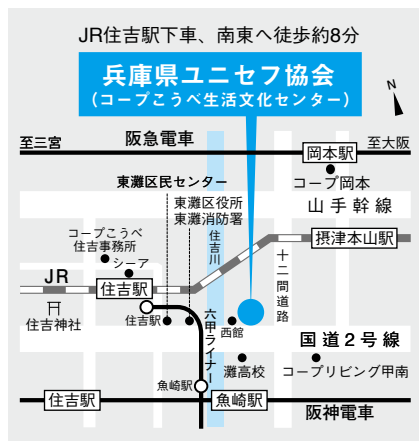
FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ 検索 



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

平和学習会 「私たちの社会は私たちの 手でつくっていこう!」

日時 9月25日(日) 13:30-15:00
会場 兵庫県民会館
講師 高橋 悠太さん (KNOW NUKES
TOKYO 共同代表、大学4年生)
定員 60人

核兵器禁止条約締約国会議やNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に参加した報告・提言と、なぜ若い世代は動くのか、そして世界の同世代とつながり見えてきたことを伝えます。




2022 国際理解講座③ トークセッション 「新しいボーダレス」

日時 11月5日(土) 13:30-15:30
会場 コープこうべ生活文化センター/オンライン
講師 甲斐 信好さん

拓殖大学副学長。国際学部教授。国際関係、アフリカの紛争、アジアの民主化をテーマに教えている。
大津 司郎さん
アフリカジャーナリスト。アフリカの紛争地域の単独取材を続け、これまでのアフリカ往復は180回を超える。




2022 国際理解講座② 公演「地球のステージ」

日時 10月15日(土) 13:30 ~
会場 兵庫県立尼崎の森中央緑地
出演  桑山 紀彦さん
心療内科医。NPO法人地球のステージの代表理事。

*雨天の時は、室内での2回公演を行います。
①13:30 ~ ②14:50 ~ 定員は各50人、要申込
*(公財)兵庫県国際交流協会民間国際交流事業から助成を受けて開催します。

2022 国際理解講座④ 「映像で知る戦争と子どもたち」

日時 12月3日(土) 13:30-15:30
会場 コープこうべ生活文化センター/オンライン
講師  玉本 英子さん
ジャーナリスト。アジアプレス大阪オフィス所属。

中東地域、ウクライナで、戦禍に苦しむ市民の視点に立って取材を続ける玉本さんの取材報告会です。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の
申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

News お知らせ

第21回ユニセフのつどい

日時 2023年3月4日(土)
ユニセフのつどいは、兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。どうぞご予定ください。

Booth 出展参加

| | |
|------------|--------------------------|
| 10月1日(土) | うみかぜ音楽祭 in Maiko (舞子公園) |
| 11月5日(土) | にしのみやふるさとウォーク 2022 |
| 11月23日(水祝) | コープこうべ生活文化センター 40周年記念文化祭 |

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。
オンラインでの開催も可能です。
お気軽にお問い合わせください。

ユニセフ ひょうご サポーター



賛助会員募集中
賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動をサポートしてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。

ユニセフひょうごサポーター
入会申込書

unicef